

茨城大学大学院理工学研究科 都市システム工学専攻

令和３年度前期 専攻教育点検報告書

令和３年１１月７日

報告者 都市システム工学専攻 専攻長 原田隆郎

１．実施日時と場所

令和３年９月１７日（金）１１：４５～１２：３０ Teams オンライン

２．出席者

常勤教員：山田 小林 横木 原田 桑原 信岡 熊澤 久野 藤田 平田 車谷 辻村 肥田 榎本
一ノ瀬 吉田 稲用 増永（全常勤教員２０名のうちの１８名が出席）

（常勤教員のうちの欠席者：呉（介護休業） 遠藤（クロス教員契約時間外））

非常勤教員：出席なし

技術職員，事務職員：出席なし

３．添付資料

資料１ 会議議事録

資料２ 点検科目一覧

４．授業点検の実際

４．１ アンケート実施状況

点検評価に先立って実施した，授業アンケートの回収状況は以下のとおり．

常勤教員担当科目分： １９科目／常勤教員担当科目総数２０科目

非常勤教員担当科目分： ０科目／非常勤教員担当科目総数０科目

- ・ サステナビリティ学最前線（田村誠・横木裕宗）は未点検（資料準備中）のため，アンケート実施状況は不明．

４．２ 点検した科目

地盤防災工学特論，国土空間情報特論，応用水理学特論，水質工学特論，構造解析学特論，建築都市計画学特論，建築構造デザイン学特論，建築都市デザインスタジオⅠ，リスクマネジメント特論，建築環境設計学特論，建築史・意匠特論，建築都市デザインスタジオⅡ，応用土質力学特論，社会基盤デザイン特別演習Ⅰ，社会基盤デザイン特別研究Ⅰ，建築デザイン特別演習Ⅰ，建築デザイン特別研究Ⅰ，サステナビリティ学特別演習Ⅰ，サステナビリティ学特別研究Ⅰの１９科目

前期に開講した専門科目の総数２０科目中１９科目（９５％）

<未点検科目>

- ・ サステナビリティ学最前線（田村誠・横木裕宗）は未点検（資料準備中）

<2021 年度前期の開講状況を踏まえ後期 FD で点検を行う科目>

- ・ 国際実践教育演習（田村誠他）
- ・ 国内実践教育演習（田村誠他）
- ・ ファシリテーション能力開発演習Ⅰ（山岸裕）
- ・ ファシリテーション能力開発演習Ⅱ（山岸裕）

4. 3 具体的な点検方法

前期に開講した20科目中19科目について、以下の方法で点検を実施した。各科目の具体的な点検結果は、資料1の議事録における「点検評価と結果」を参照のこと。

- ・ 各科目について、授業担当の教員が担当科目の授業点検改善表等の資料に基づいて説明し、学生アンケートでの指摘点を中心に授業方法の優れている点や改善すべき点について自己評価・議論を3分程度行った。
- ・ 社会基盤デザイン特別演習Ⅰ, 建築デザイン特別演習Ⅰ, サステナビリティ学特別演習Ⅰ, 社会基盤デザイン特別研究Ⅰ, 建築デザイン特別研究Ⅰ, サステナビリティ学特別研究Ⅰの6科目については、まず、「①実施内容と状況」、「②実施の証拠と保存状況の確認」、「③成績評価の方法」を所定の書式にまとめた報告書を点検し、「④学生からの報告と指導への要望」を確認した。
- ・ 前年度の点検評価で出された各科目の課題・問題に対する対応実績について、授業点検改善表を用いて各出席者が確認と参加教員全員から質疑応答を受け議論した。

5. 点検評価の結果

5. 1 昨年度の点検評価で出された改善策のフォローアップ

- ・ 点検を行った全ての科目において、昨年度に改善すべき問題点は改善されていたことが確認された。

5. 2 今回の授業方法で優れている点

- ・ 「構造解析学特論」の点検における議論の中で、この授業に適した教科書を作成し、それを使用して以降は授業を行う予定であるとのことであり、履修者が理解しやすい教材を提供していくことが報告された。
- ・ 「水質工学特論」の点検における議論の中で、シラバスの内容に加えて、履修者に興味のある内容を聞いた上で、授業内容をアレンジして理解度を向上に効果的であることが挙げられた。

5. 3 今回の授業方法で改善すべき点

- ・ 授業へのモチベーションが低い学生がいること、きめ細かな内容についてこられない学生が見受けられることが複数の科目で報告された。また、課題に関する提出レポートの作成に問題がある学生が複数いたとの報告があった。担当教員、指導教員を含めて、今後対策を行うことが重要であることが認識された。

6. 教育改善活動

2つのテーマについて教育改善活動を行ない、以下のように議論がなされた。

テーマ1：DC と manaba の授業での利用状況

- ・ DC は成績登録関係で使用し、授業関係（レポート提出、講義資料アップロード等）は manaba に統一したいというのが大学の考え方。
- ・ 中間アンケートを記名式で行うならば manaba でよいが、匿名による回答を求める質問がある場合には、DC や Forms となる。よって、全てを統一する必要はないと考えられる。
- ・ 複数教員によるレポート提出方法に違いあり、学生に混乱が生じないよう科目内は統一すべき
- ・ 学生への連絡に、manaba, DC, メール, Teams の投稿など複数の方法が考えられるが、また、オンライン授業時の遅刻理由や通信トラブルの報告についても複数が考えられるが、統一した往々にするための課題を今後整理する必要がある。

テーマ2：予習用デジタルコンテンツ・単位取得機会の増加への対応

- ・ 標準修業年限×1.5年卒業率について、教授会での説明内容が改めて紹介された。対応策として挙げたのは、①予習用デジタル教育コンテンツ整備による授業時間外学習の習慣づけ、②単位修得機会の増加（原則1、2年生の必修科目）である。
- ・ とともに教員の負担が多えることになるので、他の方法も検討すべきである。また、①、②で効果があるのか確認する必要がある。特に①については成績上位層に限定して効果があると考えられる。
- ・ 単位修得機会の増加のため、大学に追試験制度を復活させてもらうべきとの意見があった/成績下位層を4年で卒業させるのは相当な労力である。成績上位2/3の層のレベルを維持し、残りの1/3の層に対してはきめ細かな指導を行うか、非JABEEコースを作るのも1つの方法であるとの意見が出され、継続することになった。

7. 報告書の開示

この報告書と同じ内容の書類を Teams の学科会議チームに設置した学科FDチャンネル内に備え、学科の全教員が自由に閲覧できるようにした。

8. 『産学協同カリキュラム改良委員会』を受けての教育改善活動について

前回の産学協同カリキュラム改良委員会の中で、遠隔授業のあり方について、対面授業

の重要性，上手く対面とオンラインの仕分けをすべきであるという意見交換があり，前期授業科目を点検した．その結果，対面を取り入れた科目も若干はあったが，講義科目の多くはオンラインのみで実施しており，ハイブリッド型への移行の検討も必要である．一方で，受講生が多すぎて対面授業は難しい科目があることも確認できた．

9. その他

特になし．